

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600123		
法人名	社会福祉法人 緑陽会		
事業所名	グループホーム竹とんぼ		
所在地	苫小牧市字樽前2 2 2番地 1 1 (電 話) 0144-61-7788		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年3月11日	評価確定日	平成20年5月7日

## 【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 12年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	7.97人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円~37,200円	その他の経費(月額)	15,000円~15,500円	
敷 金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	470 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	0	要介護2	2		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 85.05歳	最低	77歳	最高	88歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	道央佐藤病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は社会福祉法人緑陽会を母体法人とし、自然豊かな環境に平成12年に開設された。事業所内は広く全体的に明るい雰囲気有しており、利用者はゆったりと生活している。また、ノーマライゼーションの精神を大切に、職員は利用者の主体性や人権を尊重した理念を基に、利用者が安心して暮らし続けられるよう熱意を持って日々のケアサービスを実践している。また、運営者は職員育成にも力を注いでおり、研修体制を充実し、スキルアップや研鑽に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題であった「運営理念の啓発」については、社会資源としての役割を通じて地域から理解を得るよう働きかけている。また、「市との関わり」については、地域包括支援センターと連携を図り、研修会を実施要請するなど、改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりがシートに記入し、会議において意見討議を行いホーム長がまとめるなど、全員で自己評価に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を開催し、活発な意見討議を行い、そこで出た提案を具体的な取り組みに繋げている。また、教育機関や町内会と連携した行事を実施するなど、会議を通じて地域との協力体制を強化し更なる質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所内部・外部に苦情相談窓口を設置し、家族が意見・要望等を表出できる体制を整えている。また、職員は家族とのコミュニケーションを大切にしており、家族の来訪時や電話連絡をした際に、気軽に意見等を言いやすい雰囲気作りに努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣小学校での行事見学・保育園児による事業所来訪・地域文化祭での利用者作品の展示など、地域に事業所への理解を深めてもらいながら交流が深まるように取り組んでいる。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に全職員で作り上げた「地域と共にあること、地域の一員として暮らすことを目指す」という独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議で理念について話し合い、日々のケアサービスの振り返りを通して全員で理念を共有し、その実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校での行事見学・保育園児による事業所訪問・文化祭での利用者作品の展示など、地域の教育機関や町内会との連携を強化し、交流が深まる取り組みを行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりがシートに記入し、会議で意見討議を行い管理者がまとめるなど、全員で自己評価に取り組んでいる。また、評価の意義・目的について全職員への周知を図り、具体的な改善策を講じ、更なるケアサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、活発な意見交換を行っている。また、会議で出た意見・案等を事業所の運営に反映させ、地域との交流促進に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、事業所の実情を報告したり相談するなど、日頃から連絡を取っている。また、地域での介護教室開催に向けて協力要請するなど、協働しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りを発行し、行事や日常生活の様子を収めた写真と併せて家族に送付し、利用者の暮らしぶりを報告している。また、金銭管理についても定期的に報告し、通院後はそのつど受診結果を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内部・外部に苦情相談窓口を設置し、家族が意見・要望等を表出できる体制を整えている。また、苦情ボックスを設置したり、家族の来訪時や電話連絡をした際に、職員は家族が意見等を言いやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の労働環境を整備し、利用者へ馴染みの職員が継続的に支援できるよう取り組み、異動・離職が最小限となるよう努めている。また、やむを得ず異動等があった場合は、全職員で利用者を支援し、ダメージの緩和に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、人材育成にも力を注いでおり、定期的に法人内合同による勉強会や伝達講習を実施している。また、段階に応じた外部研修に参加する機会を設け、職員は積極的に受講し、資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流の重要性を認識しており、市の連絡協議会や地区の連絡交流会等に出席したり、北海道グループホーム協議会に加盟し、同業者との情報交換を行っている。しかし、全職員が同業者と交流し、連携を図るまでには至っていない。	○	今後は、全職員が他事業所職員との交換研修等により交流し、更なるサービスの質の向上に取り組むことが期待される。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族に事業所を見学してもらったり、家族も一緒に宿泊してもらうなど工夫している。また、職員は利用者の生活歴や心情を配慮し、一日でも早く事業所に馴染めるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ちながら接し、ともに生活する中で知恵・文化等を教えてもらいながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を収集し、職員間で気付き等を共有しながら一人ひとりの意向・思いの把握に努め、その人らしい暮らしの継続に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを実施し、職員の気付きをカンファレンスで話し合い、本人・家族・医療関係者等の意見を採り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行うとともに、利用者の状態変化に応じてそのつど家族と話し合い、新たな介護計画を作成し、合意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院時の送迎や冠婚葬祭等の外出時の付き添いなど、事業所として最大限支援できるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じて、入居前からのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、2週に1度の協力医療機関による往診や、週に1度の訪問看護体制を整えるなど、適切な医療を受けられるよう支援している。また、利用者の健康状態についていつでも相談できるよう、協力医療機関と連携を密に図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のあり方について、家族や医療機関と話し合い、意向をくみながら対応している。しかし、事業所の対応方針について文書化するまでには至っていない。	○	今後は、重度化・終末期に向けた事業所の指針等を文書化し明示するとともに、同意書を作成し、本人・家族がより安心して終末期を迎えられるよう支援する取り組みが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格を尊重し、誇りを損ねることのないような言葉掛けや対応を行っている。また、個人情報の取り扱いに関して同意書を作成し、プライバシー保護を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースを大切に、買い物・外出など曜日や時間を決めず、一人ひとりの希望に応じた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じて買い出し・盛り付け・後片付け等を職員と一緒にやっている。また、外食・テラスでの食事会など多彩な変化をつけ、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯など利用者と相談し、一人ひとりの希望に応じた入浴支援を行っている。また、浴室は広く窓からは景色が眺められ、職員は言葉掛けに配慮しながら、利用者が寛いで入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の喜びや生きがい等を把握し、家事・菜園・花畑作業・習字など、一人ひとりの力や生活歴に合わせた役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・花見・日帰り温泉・行事への参加などの外出支援を行い、気分転換やストレス発散となるよう取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間帯は施錠しているが、日中は職員の見守りを工夫し、鍵をかけずに利用者が自由に外出できるよう支援している。また、玄関は自動ドアを使用しており、鈴を設置し利用者の外出を把握するなど、安全面に配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による指導の下、定期的に昼夜を想定した避難訓練を実施し、緊急時の食料提供や避難場所確保等について併設事業所と連携を図っている。また、消防署のみならず、警察・自衛隊などの公的機関と連携を図り、緊急時の防災体制を整えている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者の食事・水分摂取量を毎日記録し、全体的なバランスを確認している。また、献立のカロリーや栄養バランス等を管理栄養士が確認し、一人ひとりの状態に応じた食事を提供している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広く、全体的に明るい雰囲気有しており、利用者が生活しやすい造りになっている。また、セミパブリックスペースが確保され、要所に職員手作りの品々が置かれるなど、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、洗面台が設置されたり、利便良く収納できる押入れが設備されるなど、利用者が居心地良く過ごせる工夫をしている。また、利用者が使い慣れた馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ思い出の品が飾られており、本人が安心して過ごせるような空間となっている。		

※  は、重点項目。